

定期作況報告

(第3号 平成13年7月20日現在)
北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

6月下旬：最高気温および最低気温は平年1.4℃、0.7℃高かった。降水量は平年より8mm多く、平年対比141%であった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より7.9時間少なく、平年対比85%であった。夏日（最高気温25℃以上）は7日間であった。

7月上旬：最高気温および最低気温は平年より各々1.3℃、0.4℃低かった。降水量は平年より61mm多く、平年対比314%であった。降水日数は平年より1日多かった。日照時間は平年より16.1時間少なく、平年対比62%であった。夏日は3日間であった。

7月中旬：最高気温および最低気温は平年より各々1.5℃、2.6℃高かった。降水量は平年より54mm多く、平年対比270%であった。降水日数は平年より1日多かった。日照時間は平年より17.3時間少なく、平年対比66%であった。夏日は8日間であった。

6月下旬から7月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	6月下旬			7月上旬			7月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	24.7	23.3	1.4	22.7	24.0	▲1.3	26.5	25.0	1.5	24.6	24.1	0.5
最低気温(℃)	12.9	12.2	0.7	13.8	14.2	▲0.4	17.5	14.9	2.6	14.8	13.8	1.0
平均気温(℃)	18.5	17.5	1.0	18.0	18.8	▲0.8	21.3	19.7	1.6	19.3	18.6	0.7
降水量(mm)	26	18	8	90	29	61	85	31	54	200	78	122
降水日数(日)	2	3	▲1	5	4	1	5	4	1	12	11	1
日照時間(h)	45.4	53.3	▲7.9	26.4	42.5	▲16.1	34.0	51.3	▲17.3	105.8	147.0	▲41.2

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

1) 水 稲 : 平年並

事 由： 幼穂形成期は平年より1～2日早く、止葉期は平年並から3日早かった。主稈葉数はほぼ平年並みであった。当圃場では7月上旬から中旬にかけて最高分けつ期となる場合が多いが、本年は6月末から7月上旬となり、7月20日現在では最高分けつ期を過ぎていた。このため㎡当たり莖数は平年より191～238本少なく、平年比76～84%であった。草丈は平年より4.3～7.2cm長かった。

生育が進んでいるため、7月30日現在（最高分けつ期後に相当）の平年値と比べると、㎡当たり莖数は90～101%であり、穂数減には結びつかないと考えられる。

また、冷害危険期に不稔を誘発するような強い低温が現れなかったことから、目下の作況は「平年並」である。

表2 生育期節

品 種 苗	幼穂形成期 (月・日)			止葉期 (月・日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	7.02	7.03	△1	7.17	7.19	△2
ほしのゆめ 中苗	6.30	7.01	△1	7.17	7.17	0
きらら397 成苗	6.28	6.30	△2	7.14	7.17	△3

注1) 平年値は平成6～12年の7か年から平成6年と平成10年を除いた5か年の平均値。

ただし、「ほしのゆめ」は平成9～12年の4か年の平均値。

2) △印は平年に比べて早を示す。

3) 幼穂形成期の判定基準：全主稈幼穂長2mm

4) 止葉期：全莖の40～50%に達した日

表3 7月20日現在の本田生育

品 種 苗	主稈葉数 (枚)			莖数 (本/㎡)				草 丈 (cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較
きらら397 中苗	11.3	11.2	0.1	815	976	▲191	84	71.3	64.1	7.2
ほしのゆめ 中苗	10.7	10.7	0	776	968	▲192	80	73.8	68.8	5.0
きらら397 成苗	11.0	11.1	▲0.1	749	987	▲238	76	71.7	67.4	4.3

注1) 平年値は平成6～12年の7か年から平成6年と平成10年を除いた5か年の平均値。

ただし、「ほしのゆめ」は平成9～12年の4か年の平均値。

2) ▲印は平年に比べて減を示す。

2) 秋まき小麦 : 不良

事由： 出穂期は平年に比べ6日～8日進んでいたが、6月中旬の低温と6月下旬以降の多雨、日照不足の影響を受けたことから、成熟期は平年に比べ1日～3日早まるにとどまった。稈長は平年に比べ9cm～14cm短く、穂長も0.7cm～0.9cm短い。越冬後、茎数は平年より少なく推移していたが、穂数も平年を大きく下回っている。したがって、目下の作況は不良である。

表4 7月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名	出 穂 期 (月日)			成 熟 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
タイセツコムギ	6. 7	6.15	△ 8	7.20	7.23	△ 3
ホクシン	6. 4	6.10	△ 6	7.16	7.17	△ 1

品 種 名	稈 長 (cm)			穂 長 (cm)			穂 数 (本/m ²)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
タイセツコムギ	76	85	▲ 9	8.2	9.1	▲0.9	413	523	▲110
ホクシン	72	86	▲14	7.8	8.5	▲0.7	401	628	▲227

注1) 平年値は、前7か年中、平成6年、7年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。▲は平年より減を示す。

3) とうもろこし : やや良

事由： 気温が全般に平年よりやや高く推移したため、生育は順調で草丈は平年より30cm高く、出葉数は平年より1.1葉～1.2葉多い。したがって、目下の作況はやや良である。

表5 7月20日のとうもろこしの生育

品 種 名	草 丈 (cm)			出 葉 数 (枚)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
キタユタカ	245	215	30	17.4	16.3	1.1
P3732	235	204	31	17.9	16.7	1.2

注1) 平年値は、前7か年中、平成10年、12年を除く5か年の平均値。

2) 平成10年度より栽植本数を 7576本/10aに変更した。

4) 大豆 : 平年並

事由: 開花期は両品種とも平年より3日早かった。全般に日照時間が少なく、降水量が多かったため、両品種とも主茎長は平年より長く、主茎節数はほぼ平年並となり、やや徒長気味の生育となっている。分枝数は「トヨムスメ」ではほぼ平年並であり、「トヨコマチ」では平年を上回っている。

したがって、目下の作況は平年並である。

表6 7月20日の大豆の生育

品 種 名	開 花 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	7.13	7.16	△ 3
トヨコマチ	7.12	7.15	△ 3

品 種 名	主 茎 長 (cm)			主 茎 節 数 (節)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	60	52	8	10.2	10.1	0.1	6.9	6.7	0.2
トヨコマチ	64	60	4	11.2	10.9	0.3	7.5	6.6	0.9

注1) 平年値は、前7か年中、平成7年(最豊)及び平成6年(最凶)を除いた5か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。

5) 小豆 : 平年並

事由: 気温は7月上旬を除いて高めに推移したが、全般に日照時間が少なかったため、両品種とも主茎長及び本葉数は平年を上回っているものの、分枝数は平年より少なく、やや徒長気味の生育を示している。なお、「サホロショウズ」では平年より1日早く開花期を迎えている。

したがって、目下の作況は平年並である。

表7 7月20日の小豆の生育

品 種 名	主 茎 長 (cm)			本 葉 数 (枚)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	32	26	6	8.2	7.3	1.1	4.6	5.7	▲ 1.1
エリモショウズ	31	24	7	8.7	7.6	1.1	5.2	5.5	▲ 0.3

品 種 名	開 花 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	7.19	7.20	△ 1
エリモショウズ	未	7.23	

注1) 平年値は、前7か年中、平成12年を除く6か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。▲は平年より減を示す。

6) ばれいしょ : 平年並

事由: 開花始は平年より1日~2日早く、気温は7月上旬を除き平年より高めに推移したが、全般に日照時間が少なく降水量が多かったため、徒長気味の生育で、茎長は平年よりやや長くなっている。

したがって目下の作況は平年並である。

表8 7月20日のばれいしょの生育

品 種 名	開 花 始 (月日)			茎 長 (cm)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
農林1号	6.24	6.26	△2	79	74	5
男爵いも	6.24	6.25	△1	47	41	6

注1) 平年値は、前3か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。

7) てんさい : やや不良

事由: 気温は7月上旬を除き平年より高めに推移したが、全般に日照時間が少なく降水量が多かったため、草丈は平年をやや上回っているものの、根周および生葉数は平年をやや下回っている。

したがって目下の作況はやや不良である。

表9 7月20日のてんさいの生育

品 種 名	草 丈 (cm)			生 葉 数 (枚/株)			根 周 (cm)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
モノホマレ	63	56	7	23.5	24.3	▲0.8	22.3	23.0	▲0.7
ストック	61	57	4	21.2	22.5	▲1.3	23.0	24.0	▲1.0

注1) 「モノホマレ」の平年値は、前7か年中、平成10年11年を除く5か年の平均値。

「ストック」の平年値は、前4か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。